

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成30年1月13日
1. 初期支援(はじめのかかわり)	メンバー	中川佑治 寺田美枝子 小池愛 若松健司 東田良弘 一色京子 浜道美由起 中西暢久

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	人	5人	2人	人	7人

前回の改善計画	初回の情報共有やカンファレンスだけでなく、利用して慣れてきた段階で、個々の利用者の様子や対応について、もっと話し合う機会を作っていく。関わり方に対しても、スタッフ間でまとまっていないことや方向性が定まっていない部分もあり、それに伴い、気遣いが不足していることもある為、日々の様子や本人との会話の中で得た情報を、しっかりと記録に残し、スタッフ間で情報共有し意見交換する場を増やし、よりよい対応につなげていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	月に一回のミーティング時や日々の記録等で情報共有や意見交換はしているが、まだまだ話し合いができていないことも多い。日々、利用者の状態は変わるので、ミーティング時だけでなく、話し合いの時間をつくり情報交換しかわり方を統一していくことが必要と思われる。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	4	3			7
② サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?		7			7
③ 本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いで声掛けや気遣いができていますか?	2	5			7
④ 本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	2	5			7

できている点	200字程度で、できていること、その理由を記入すること
①利用前に面談等で、家族や本人、また、本人を知る方から利用者の情報を集め、ミーティングやフェースシート等の記録を活用し開始前に分かる情報は共有している。不足の分は、利用中の情報などや追々聞き出していき等し、スタッフ間で共有している。②本人や家族が、現在困っていることや必要としていることを確認し、それを最優先に考え、個々にあった利用方法やサービス、ケア等を提供している。ケアの提供後は、記録に残し、次の支援につなげている。③慣れていない時期は、本人が不安にならないように声をかけたり、無理強いしないように対応している。通いサービスに導くために、訪問からはじめたり体験利用をし様子を見たりと個々によって工夫をしている。また、多数の職員で関わるのではなく、慣れるまでは対応するスタッフを固定したりする等、配慮もしている。④送迎時や連絡帳、電話やメールを活用し、家族への報告をこまめにおこなっている。情報交換をして共有することで、不安を少しでも解消できるよう、日々努めている。また、家族等が困っていること等、早急な改善や対応ができるよう努めている。	

できていない点	200字程度で、できていないこと、その理由を記入すること
①生活面や習慣、馴染み等についても情報収集しているが、支援に活かせていないこともある。急な利用であれば情報が不足していることがある。②利用前に情報が少ないと、支援をしながら、様子をさぐり対応している時もある。また、認知症で自分の想いを伝えられない方等は、家族のニーズ中心になっている部分も多い。③利用前に情報を共有しているが、関わり方に対してスタッフ間でまとまっていないことがあり、個々のスタッフによって気遣い、声かけが異なり、気遣いが不足していることもある。④ミーティングや記録等で周知しているが、家族と関わりのあるスタッフしか把握できていない部分がある。家族との関わりの中で、不安な部分や想いを受け止め、もっと細かく記録に残し、スタッフ間で情報を共有していく必要がある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
前回の改善計画にもあげたが、利用して慣れてきた段階で、個々の利用者の様子や対応について、もっと話し合う機会を作る。また、関わり方に対しても、スタッフ間でまとまっていないことや方向性が定まっていない部分もある為、日々の様子や本人との会話の中で得た情報を、しっかりと記録に残し、スタッフ間で意見交換する場をもっと増やし、よりよい支援につなげていくように、引き続き取り組んでいく。また、生活面等についても情報だけでなく、今後の支援に活かせるようにしていきたい。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成30年1月13日
2.「～したい」の実現 (自己実現の尊重)	メンバー	中川佑治 寺田美枝子 小池愛 若松健司 東田良弘 一色京子 浜道美由起 中西暢久

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	人	4人	3人	人	7人

前回の改善計画
今後も引き続き、各担当中心に、日常の様子やケアマネジャーのモニタリング時に定期的に同行し、情報収集していく。全スタッフが全利用者のことを理解することは難しいかもしれないが、各担当中心に知り得た情報等は他のスタッフにも発信していく。その中で、日々を何となく過ごしてもらったり、目先のことの理解や対応だけでなく、本人の希望や想い、生活を継続していくために必要なことを理解し、対応や関わりにつなげていく。それらを状態に応じて、ケアマネジャーや各担当中心に話し合いをし、見直しをしていく。
前回の改善計画に対する取組み結果
何度かケアマネジャーのモニタリングにスタッフが同行し情報収集したり、担当者会議においても家族や利用者の希望や想いを確認したりしているが、定期的にはできていないのが現状である。ケアマネジャーや管理者、各担当の中で終わらしてしまうのではなく、他のスタッフにも発信し、対応や関わり等について話し合いし、随時、見直ししていく必要がある。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 「本人の目標(ゴール)」がわかっていますか?		7			7
② 本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?		7			7
③ 本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?		4	3		7
④ 実践した(かかわった)内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?		4	3		7

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①利用者や家族との話を元にケアプランを作成し、ケアプランにて目標を明確にしており、そのケアプランの内容は全スタッフが確認できる状態である。また、随時、スタッフ間でもカンファレンス等を実施し確認し合っている。②利用者や家族との話を元にケアプランを作成し、ケアプランにて目標を明確にしており、そのケアプランの内容は全スタッフが確認できる状態である。担当者会議に本人や家族も参加するよう促し、参加できない場合も意見をもらうようにしている。利用者のその時々にあった想いやケアの内容を理解し対応している。③利用者から「～したい」という目標や希望はなかなか言葉ででてこないこともあるが、その人の習慣や行動から、「～したい」を考えながらケアし、日々、関わるよう努めている。④利用者個々によって、まだまだ活かしている人、活かしていない人というが、各担当を中心に問題点や疑問点等、スタッフ間で情報交換し、ミーティングやカンファレンスにて利用者への対応を随時、振り返りや見直しをしている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
①～④ 利用者によってできている人、できていない人というのが現状である。利用者によっても声を発する方はわかりやすいが、本人の意向が掴みにくい方もいるのが現状である。また、目先の課題や問題点へのアプローチが先になってしまっている場合も多い。その中で、本人の希望や意思ではなく、家族の思いや意向が優先されている部分も多い。また、利用者の状態の変化に応じてケアプランの見直しや変更ができていないこともあるため、スタッフ間で「この人はこうだろう。こうしたいだろう」の考えなどバラバラになっていることもある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
引き続きケアマネジャーのモニタリングに利用者の担当スタッフが同行し情報収集したり、定期的に家族や利用者にも声をかけ担当者会議を開催し、家族や利用者の希望や想いを確認できるようにしていく。また、目先の課題や問題点を中心になりやすいため、利用者の「～したい」という思いや目標に対して実現できるよう、状態に応じてケアプランを見直ししていく。スタッフが利用者の「～したい」という思いに対して、関わりやアプローチができるよう話し合いし、利用者の支援を見直ししていきたい。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成30年1月13日
3. 日常生活の支援	メンバー	中川佑治 寺田美枝子 小池愛 若松健司 東田良弘 一色京子 浜道美由起 中西暢久

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	人	5人	2人	人	7人

前回の改善計画

2と同様に、定期的かつ継続的にケアマネジャーのモニタリングに担当のスタッフも同行し、家族との信頼関係を深め、情報を引き出していく。前回、せっかく取り組んだ内容が、うまく記録として残せておらず、スタッフ間で共有できていないこともあったため、しっかりと記録に残し、情報共有できるシートの作成をすることで、形として残していく。また、本人・家族の思いや意向を理解し、スタッフ同士でもケアの方向性や捉え方等を、できる限り統一していく。

前回の改善計画に対する取組み結果

定期的なケアマネジャーのモニタリングへの同行は出来ていない。ただ、本人や家族の思いや意向を理解するため、記録等を残し、スタッフ間で情報交換し、話し合っている。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?		2	5		7
② 本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	1	6			7
③ ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?		7			7
④ 本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?		7			7
⑤ 共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?		7			7

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

①フェースシート・ケース記録・本人・家族・スタッフ間の情報にて生活環境を理解することが出来ていることもある。②本人のペースに合わせながら、極力無理強いをせず、かめやん家で対応可能な介護の提供は工夫しながら対応できている。また、本人の日々の状況や体調に応じて対応を見直している。③本人の表情や行動、しぐさ等により感じ取った本人の状態について、スタッフで気づいたことは共有し話し合いをしている。④異変に気づくことができるようスタッフ間で情報交換、共有している。その中で、必要に応じて看護師や医師へも相談し、都度、対応している。⑤その時々本人の状況に合わせて、気分転換の為に外出へ誘ったり、体調が優れない時は、泊まりサービスにて対応する等、サービスを臨機応変に提供している。

できていない点

200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること

①利用者によってはわかりづらい方もいる。生活習慣を10個以上と言われると把握できていない方もいるのが現状である。自宅と施設利用時とを連動して考えていない部分もあり、その利用者の状態・環境のなかで取り組めていない方もいる。ケアプランに生活面や、訪問サービスを活用した支援、アプローチが少ないのも原因と思われる。④⑤その都度、即時的には完璧には出来ないこともある。個々のスタッフの経験や気づきにも差があり、気づかないことにより即時的に支援できていないこともあり、後手になってしまうこともある。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

自宅と施設利用時とを連動して考えていない部分があるので、すぐに通いサービスで対応するのではなく、訪問サービスを最大限に活用し、自宅での生活を支援、アプローチできるようにしていく。そのなかで、個々の利用者の生活環境を理解していきたい。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成30年1月13日
4. 地域での暮らしの支援	メンバー	中川佑治 寺田美枝子 小池愛 若松健司 東田良弘 一色京子 浜道美由起 中西暢久

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	5人	2人	人	7人

前回の改善計画
<p>スタッフ自身が地域の資源等の理解や把握ができておらず、勉強会の開催もできていないのが現状である。地域性を理解することで、利用者への関わり等にも活かせることにつながるかもしれないので、スタッフ間で勉強会を開催し取り組んでいく。また、引き続き、地域の方との挨拶やコミュニケーションを積極的に行っていくことや、行事等の参加を促すことで、利用者とのつながりが切れないうち支援していく。かめやん家の近隣以外の利用者の方については、その方と地域との関係性や、背景等がみえてきていないこともあるのが現状である。また、利用者自身が求めているかもわからない為、関わりの中で訴えがあれば、随時対応ができるようにしていく。</p>

前回の改善計画に対する取組み結果
<p>地域資源を理解するための勉強会は開催できていない。ただ、地域の方が利用する事が増えてきたこともあり、利用者を通じて教えて頂く事が増えてきた。地域の方のかかわりは地域行事等により支援できている。かめやん家の近隣以外の利用者の方については、まだまだ地域との関係性や背景はみえてきていないこともある。引き続き、訴えがあれば、随時対応ができるようにしていく。</p>

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?		6	1		7
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないうちに支援していますか?		7			7
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?		1	6		7
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?		1	6		7

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>①全てにおいて理解や把握はできていないこともあるが、モニタリングや送迎時、日々の関わりの中で、家族や利用者とは話し、得た情報をもとに理解はできている部分もある。②利用者により地域との関わりは差はあるが、ホームで抱えこまないように、家族に任せられるところは任せたりと対応している。行事の参加を促したり、地域の方とは、つどいや地域の喫茶やサロン等の行事により関われるよう支援している。③訪問の対応が必要な方は、自宅での生活がある程度見えており把握している部分もある。また、利用者によっては、様子伺いの訪問が増え、把握できてきたケースもある。④地域の病院や薬局、訪問理美容等のサービスは活用していたり、地域住民の協力等で利用者を支えたりとしているが、まだまだ、家族やホームにて対応していることの方が多のが現状である。</p>	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
<p>①利用者によって分かっていく所もあり差があるのが現状である。また、利用者のなじみの環境や地域のコミュニティ等も理解が不十分のため、在宅が基本であるにも関わらず、ホームでの利用に対応したケアや支援をしてしまっていることもある。②地域性もあり、本人の地域での活動が把握できておらず支援できていないことも多い。また、その方にとってどれだけ必要なのか、必要性の有無についても話し合う必要がある。利用者によっては、かめやん家での生活が中心となってしまっている方もおられ、ホームで抱え込んでしまっている方もいる。③本人や家族、他のスタッフからの情報のみで、実際に利用者が自宅でのように過ごしているのか、かめやん家から遠い利用者ほど、自宅での様子が見えにくい方もいる。また、それでも困らないため、知ろうとしないこともある。④ホーム長やケアマネジャーは把握できている部分はあるかもしれないが、スタッフ間では、本人の各地域の民生委員や地域資源等の理解や把握はできていないこともある。また、利用者日々のケアや関わりに追われ、スタッフ自身、そこに目が届いていない部分もある。</p>	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
<p>在宅が基本のサービスのため、通いサービス利用に対応したケアや支援をするのではなく、利用者の思いや生活スタイルを理解し、訪問サービスを最大限に活かし、ケアや支援していく。そのためにも、家族の理解や協力も必要のため、どうすれば、長く在宅生活が継続できるのかを一緒に考えていきたい。</p>	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成30年1月13日
5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー	中川佑治 寺田美枝子 小池愛 若松健司 東田良弘 一色京子 浜道美由起 中西暢久

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	人	7人	人	人	7人

前回の改善計画

4と同様に、地域の資源等については勉強会等の開催にて、知識を広げていく。利用者によっては、かめやん家のサービスのみで解決しようとし抱え込んでしまっている部分があるので、できないところはできないと、地域資源の活用等の検討をしたり、家族への協力を働きかける等、アプローチをする。そうすることで、利用者が長く在宅生活を継続できるよう、方向性を統一し、共に協力し支援していきたい。

前回の改善計画に対する取組み結果

勉強会の開催はできていない。ただ、地域の方が利用する事が増えてきたこともあり、利用者を通じて教えて頂く事が増えてきた。利用者によっては、家族への協力や地域住民への働きかけ等も出来ている方もいる。ただ、かめやん家がアプローチしたからだけではなく、本人と地域の元々の関わりの中でうまれているものと思われる。そうなることが自然であるが、かめやん家としてもアプローチはしていきたい。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?		7			7
② ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	3	4			7
③ 日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?		7			7
④ その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	2	5			7

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

①かかりつけ医やリハビリ等の医療機関、薬剤師、訪問歯科、訪問理美容、福祉用具等を活用し在宅生活の継続を支えている。直接的な介護は、ホームが担う形になっているが、ご近所や家族の協力を引き出すよう働きかけている。利用者によってはうまく地域資源を活用し在宅生活を支援できている方もいる。②利用者や家族と話しをし、ニーズに応じてその人に合った利用方法が妥当に提供出来ていると思う。③ミーティングや申し送り、カンファレンスにて、スタッフ間で共有している。④出来る限りは行っている。利用者の状態により、家族や利用者や相談しながら、急な訪問や通い、泊まりとサービスを活用し、可能な限りニーズに合わせて柔軟に対応している。

できていない点

200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること

①かめやん家のサービスで解決しようとしていることがある。医療機関や薬剤師、福祉用具等のサービス以外のボランティアや近隣住民、友人、町会、地域の自主事業等の、他の資源の活用ができていないことが利用者によってはある。②本来であれば、もっと本人の意向や希望に沿った対応が望ましく、家族の意向に対して本人がどう感じているのか分からない部分もある。そのため、家族の意向やホームの都合も考慮したサービスの提供になってしまっている。たとえば、本人はもっと自宅にいたいのに、家族のニーズから訪問サービスではなく通いサービスを提供していたりとする。③日々の記録が、身体的な状態や支援の記録が多くなっている。本人の声や精神面の変化への記録が、スタッフの気づきにも違いがあり共有できていないこともある。④家族の想いもあり本人のニーズに添えていないことがある。スタッフによって気づきや危機感も違うため、早急に対応できていないこともある。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

本人と地域の元々の関わりを知り、地域や家族にも協力していただけるよう、ともに支えることができるよう、アプローチをしていく。あくまで在宅サービスの為、泊まりや通いサービスで対応ばかりするのではなく、訪問サービスを最大限活用し、支援していく。また、利用者の声や思いを記録に残し、スタッフ間で共有し、状態やニーズに合わせた支援を提供していく。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成30年1月13日
6. 連携・協働	メンバー	中川佑治 寺田美枝子 小池愛 若松健司 東田良弘 一色京子 浜道美由起 中西暢久

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	人	7人	人	人	7人

前回の改善計画	本人を取り巻くかめやん家以外のサービス事業所や担当者を交えての会議を行う機会は増え、意見を頂くことも多くなってきているので、継続していく。運営推進会議にも、地域住民の参加や管理者以外の職員の参加も出来たので継続していく。地域の高齢者との関わりは、かめやん家のつどいや地域の行事等で増えてきているが、子ども等の他の年代とのつながりが少ない。保育園との交流会は出来ているので、小学校や中学校とのつながりや協力体制ができるようアプローチをしていく。
---------	---

前回の改善計画に対する取組み結果	今年度は初めて中学校の職場体験の受け入れができた。引き続き継続していきたい。地域住民との関わりも、喫茶やつどい、行事等を通して関わる事ができてきているが、日々の生活の中での関わりはまだまだ少ないと思われる。運営推進会議に地域の方の参加は定着してきたが、現場のスタッフの参加は、スタッフの人数により参加出来ないこともあったので、シフト調整し参加する機会を増やしていきたい。
------------------	---

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)との会議を行っていますか?		7			7
② 自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?		1	6		7
③ 地域の各種機関・団体(自治会、町内会、婦人会、消防団等)の活動やイベントに参加していますか?		7			7
④ 登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?	1	6			7

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①少しずつではあるが、医師や看護師、福祉用具の担当者等にも参加を促し、開催することが出来てきている。出席できない時には、照会にて意見をいただいている。薬剤師等には、薬の変更時や必要に応じて、随時、意見をいただいている。②基本、ホーム長が町会の会議や連絡会、防災への取り組みに参加できる時はするようにしている。運営推進会議についても、スタッフ参加できる時はしてもらっている。③地域開催の避難訓練や防災等の取り組み、夜警への参加。保育園児との交流会の開催、小学校の行事、地域のふれあいサロン・喫茶、だんじり等の交流の場に参加している。④定期的にかめやん家のつどいを開催し、近隣の住民が参加している。また、日頃の挨拶だけでなく言葉のやりとりも良い雰囲気づくりや交流ができています。保育園や小学校の行事等への参加もしている。職場体験やつどい等で、地域の人々に、福祉やかめやん家に興味を持っていただいている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
①他のサービス機関(歯科等)にも働きかけが必要であり、色々な視点から深く話し合いをしていく必要がある。②なかなかシフト上や日常の業務等もあり、スタッフの参加は難しい。今年度は、ホーム長自身も現場に入ることもあり参加ができていないことが多かった。③スタッフの人数、ホームの利用者の対応や行事等の予定等があり参加できないこともある。また、昨年度と同様に、かめやん家と町会や地域の異なる方に対してのアプローチができていない。各利用者の住む町会との連携を図り希望があれば、活動にも参加して行く事が必要である。④保育園や小学校に行く事はあるが、日常的に子ども達がかめやん家に行くことはほとんどない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
昨年度に引き続き、その他のサービス機関の担当者を交えての会議を開催し、意見交換していく。運営推進会議においても地域住民の参加を促し、シフトの調整をしスタッフにも参加する機会を増やしていく。また、職場体験を今年度で終わらせることの無い様、中学校とも連携し継続していきたい。その中で、つどいや職場体験を通じて地域住民にかめやん家や福祉に興味を持っていただく機会を作っていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成30年1月13日
7. 運営	メンバー	中川佑治 寺田美枝子 小池愛 若松健司 東田良弘 一色京子 浜道美由起 中西暢久

◆ 前回の改善計画に対する取り組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	7人	人	人	7人

前回の改善計画

引き続き、管理者を中心に意見を言いやすい環境を作っていく。また、管理者は職員から意見が出たことに対しては、何かの答えは必ず返すようにしていく。個々の職員については、考えることや意見を言うことの大切さ、他の職員から意見を聞く大切さを知り、様々な経験を積むことができる環境を作っていく。そのためにも、外部研修等の参加の機会を増やし、他事業所の取り組み等を聞いたりすることで、ホームの取り組みにも活かし、個々の職員のスキルアップを目指していきたい。ボランティアの受け入れ等については、少しずつ受け入れが出来てきているが、職員自身が必要性や知識等、ボランティアへの理解がまだまだ低いので、勉強会等を通じて高めていく。

前回の改善計画に対する取り組み結果

スタッフからの意見があれば、何かしらの答えや対応をするように心がけている。外部研修については、スタッフの人員の兼ね合いもあり、あまり参加ができなかった。ボランティアの受け入れは少しずつできているが、ボランティアの受け入れへの理解や活用について勉強会や話し合いが出来ておらず、まだまだ理解が低い部分もある。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができますか?		7			7
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	4	3			7
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	2	5			7
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取り組みを行っていますか?	4	3			7

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

①日頃よりコミュニケーションをとり、情報や意見を交換し、その都度、ホーム長にも相談し、ミーティング等でも意見を出すことができている。②苦情や意見はすぐに当事者にも確認し、ホーム長やケアマネジャーを通じて、直接、スタッフや皆での話し合いが必要な場合は話し合いをして早急に対応している。③地域の方からの意見や苦情等、都度、専門的な目線で早急に対応している。④毎月、かめやん家のつどいを開催し、「認知症について」「AEDについて」「防災について」「介護保険について」等の講座の実施や物づくり、催し物を開催している。また、AEDの設置や福祉避難所の協定(行政、町会、施設間の三者協定)を結んでいる。ボランティアの受け入れ等も出来てきている。

できていない点 200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること

①なかなか意見を言うことが苦手なスタッフから引き出すのは難しいし、意見を言うメンバーは決まっていることもある。②③意見や苦情等にしてもホーム長・ケアマネジャーが窓口となり対応しているので、後からこういう事があった等、結果などで聞いて終わったりと知らないこともあった。また、不在時の対応や、スタッフが利用者から言われたことを苦情として受け止められておらず認識が甘く見過ごしてしまっていることもある。④地域からのボランティアの受け入れが少ない。スタッフ間のボランティアの受け入れに対する認識が低い。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

引き続き、管理者を中心に意見を言いやすい環境を作っていく。ミーティングも意見を言いやすいよう進めかたも工夫していく。ボランティアの受け入れ等については、職員自身が必要性や知識等、ボランティアへの理解がまだまだ低いので、勉強会等を通じて高めていく。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成30年1月13日
8. 質を向上するための取組み	メンバー	中川佑治 寺田美枝子 小池愛 若松健司 東田良弘 一色京子 浜道美由起 中西暢久

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	7人	人	人	7人

前回の改善計画

職場内研修については、まだまだスタッフ間で意識の差があるため、全スタッフが必要性を理解し参加できるよう目指していく。その中で、ただ出席するだけでなく、それぞれが自分の意見や考えを言えるような雰囲気作りや勉強会の内容にしていきたい。外部研修も、スタッフのシフト上、複数の参加は難しいが、1人でも参加する機会を作る。参加したスタッフはホームにて伝達研修を行い、施設としての理解へ結びつけていきたい。ヒヤリハットについては、毎月集計し、月に1回は話し合える場を作り、今後の対応や大きな事故につながらないように取り組んでいく。地域連絡会や他施設との連絡会等については、スタッフにも参加していただいたが、1回経験しただけであったりする為、何度か参加することで、内容を深めることが出来るようにしていく。

前回の改善計画に対する取組み結果

職場内研修については、出席率は悪くないが、まだまだ、スタッフによって意識の差があり、全員参加とはいかないのが現状である。外部研修については、今年度はスタッフの人員の兼ね合いで、参加する機会が少なかった。連絡会や会議等は管理やも参加できないこともあったが、必要な情報は伝えている。リスクマネジメントについては、ヒヤリハットを月ごとにもまとめ、対策をたてて、取り組んでいる。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	6	1			7
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	1	5	1		7
③	地域連絡会に参加していますか		5	2		7
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	1	6			7

できている点

200字程度で、できていること、その理由を記入すること

①②二ヶ月に1回、職場内で研修を実施している。また、それ以外にも必要に応じて実施することがある。外部の講師を招いたり、外部の研修にスタッフが参加できたら、参加後は、職場内にて伝達研修を実施している。また、法人として資格取得の為の勉強会を開催している。③ホーム長が地域の防災の集り、他の施設との連絡会等に参加している。④スタッフの中で担当者を置き、ヒヤリハットや事故についてまとめたものを、月1回は定期的にヒヤリハットについての報告会、話し合いを実施している。また、事故についても、都度、検証して対応している。

できていない点

200字程度で、できていないこと、その理由を記入すること

①②今年度はスタッフの人員上、外部研修の参加はあまりできなかった。ホーム内の研修は、月によって参加していないスタッフもいるのが現状である。その辺りにスタッフの意識や責任感の差がある。③なかなか複数の参加が難しくホーム長が参加しており、スタッフの参加はできていないことが多い。④毎月1回、周知し検証しているが、スタッフ間によって意識や危機感にも差があり、また、継続して検証出来ていないため不十分なところもある。限られた時間の中で、難しいところもあるが、もっと深く皆で検証していく。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

職場内研修については、まだまだスタッフ間で意識の差があるため、全スタッフが必要性を理解し参加できるよう目指していく。その中で、ただ出席するだけでなく、それぞれが自分の意見や考えを言えるような雰囲気作りや勉強会の内容にしていきたい。外部研修も、スタッフのシフト上、参加出来ないことが多いので、シフトの調整をし、参加したスタッフはホームにて伝達研修を行い、施設としての理解へ結びつけていきたい。ヒヤリハットについては、毎月集計し、月に1回は話し合える場を作り、今後の対応や大きな事故につながらないように取り組んでいく。地域連絡会や他施設との連絡会等については、スタッフの参加はほとんど出来なかったが、1回、経験し内容を深めることが出来るようにしていく。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	平成30年1月13日
9. 人権・プライバシー	メンバー	中川佑治 寺田美枝子 小池愛 若松健司 東田良弘 一色京子 浜道美由起 中西暢久

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1人	6人	人	人	7人

前回の改善計画	現状、身体拘束や虐待・不適切ケアについて等、勉強会をすることで、振り返ることは出来ている。引き続き、話し合いや勉強会等を継続し、意識や知識を高めていく。個人情報の取り扱いが雑な部分もあるのが現状である。利用者のケースを使用したら事務所になおす、名前を書いた書類や薬袋等はシュレッダーにかけられる等、当たり前前を当たり前前にできるようにしていく。意識を高めるためにも勉強会の開催をし、考える機会を作っていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	現状、身体拘束や虐待については、勉強会やミーティングを通じて振り返ることは出来ている。名前を書いた書類や薬袋等は、シュレッダーにかけられる等出来ているが、利用者のケースをフロアーや事務所の机等に出っぱなしになっていることがまだまだみられている。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	身体拘束をしていない	7				7
②	虐待は行われていない	7				7
③	プライバシーが守られている	2	5			7
④	必要な方に成年後見制度を活用している	5	2			7
⑤	適正な個人情報の管理ができている	3	4			7

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①②基本的に身体拘束、不適切ケアや虐待等についての意識はしっかりとっており、身体拘束や虐待のないケアを行なっている。また、スピーチロック等の不適切ケアについても研修を通じてスタッフ間で話し合いをし理解を深めている。③トイレ等は、本人に合わせ、羞恥心などに配慮し声かけしている。入浴時は同姓介助で対応している。④必要な方には対応している。⑤個人のケースや保険証等の個人情報は事務所の鍵つきの棚にて保管している。名前の記載している書類や薬袋はシュレッダーにかけられる等、対応している。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
①②利用者が危険と感じた時やスタッフが忙しくなっているときに、時折、「ちょっと待って。」等のスピーチロックが出てしまうこともある。また、認知症に対しての理解不足の面もあるのか、利用者の言動や行動に対して、言い方がきつくなってしまうこともある。③⑤スタッフの声かけやスタッフ同士の会話が本人や他の利用者に影響を与えていることを、もっと理解して対応するべきである。スタッフのフロアーでの何気ない会話や申し送りなどで周囲に配慮できていないときが時折みられている。ケース類を使用した際、なおすべき所にしまわず出っぱなしになってしまっていることが、時折みられている。④家族がいる方は、どこまで必要なか判断が難しい。また、どのタイミングで声をかけて勧めるのかも難しい部分がある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
スタッフが認知症の方に対して、スタッフの言動や行動が利用者に影響を及ぼすことを理解し、対応する事で、不適切ケアを減らしていく。スタッフ間での会話も周囲に配慮できていないことがあるので、意識する必要がある。出したら元の場所に戻すという当たり前の事を当たり前前にできるようにスタッフ間で注意していく。	